

介護従事者における 新型コロナウイルス 感染対策

障がい者
基本編



はじめに

この教材は、動画「介護従事者における新型コロナウイルス感染対策（基本編）」と併せて活用していただくことを目的に作成しました。介護に携わる皆さんが新型コロナウイルスの感染対策を正しく理解し、感染予防に努めてください。なお、この動画と教材は、令和3年3月現在の国の方針等に基づいて作成していますので、ご注意ください。

目次

1	新型コロナウイルスの基礎知識	1
2	感染を防ぐために	2
3	防護具の扱い方、換気	6
4	利用者と職員の健康管理	8



1. 新型コロナウイルスの基礎知識

① 新型コロナウイルスとは

新型コロナウイルスは、正式には「SARS-CoV-2」と呼ばれ、これによって発症する感染症を「COVID-19」といいます。指定感染症に指定されており、新型コロナウイルスの感染が確認された場合、入院や自宅待機など、行動を制限する措置が取られます。

② 主な症状

軽症の場合

- 発熱や咳、のどの痛み
- 筋肉痛、倦怠感
- 嗅覚や味覚障害



※感染した場合でも、無症状の場合がある

重症の場合

- 肺炎



③ 重症化リスクが高いと考えられる人

- 高齢者
- 持病のある人

糖尿病／高血圧症
心臓や肺などの疾患
抗がん剤治療などによる免疫低下



2. 感染を防ぐために

一般的に感染症を防ぐには、感染源の排除、感染経路の遮断、抵抗力の向上が重要です。

① 一般的な感染症対策で必要な3項目



② 感染源の排除のポイント

感染源に近づかないことが大切です。おう吐物や排泄物は、素手で触れず、必ず手袋を着用しましょう。手袋を外した後は、必ず手洗いなどをしましょう。また、自分が無症状でも保菌者として感染源になりうるという意識を持つことも大切です。

• 感染源に近づかない

おう吐物・排泄物



必ず手袋を着用



2. 感染を防ぐために

介護現場では1ケア1手洗いが原則です。固形石けんではなく、液体石けんを使い、流水で洗います。また、タオルではなく、ペーパータオルで水分をふき取りましょう。ペーパータオルの準備が難しい場合でも、タオルの共有は避けましょう。

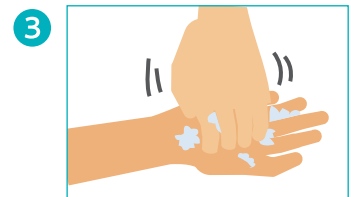
③ 正しい手の洗い方



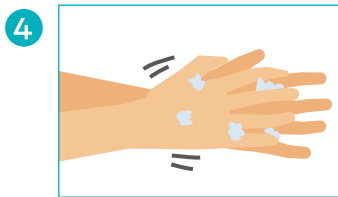
流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



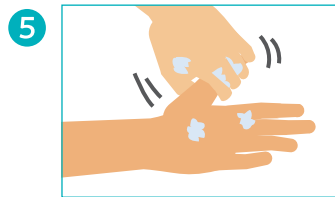
手の甲をのぼすようにこすります。



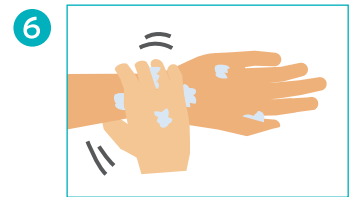
指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。

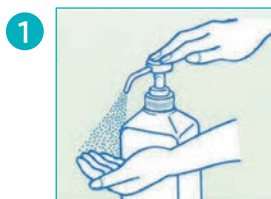


手首も忘れずに洗います。

首相官邸ホームページより抜粋

④ 正しい手指消毒の方法

手を洗えない場合は、アルコール消毒(濃度70%以上)します。



消毒薬約3mLを手のひらに取ります(ポンプを1回押すと霧状に約3mLです)。



初めに両手の指先に消毒薬をすりこみます。



次に手のひらによくすりこみます。



手の甲にもすりこんでください。



指の間にもすりこみます。



親指にもすりこみます。



手首も忘れずにすりこみます。乾燥するまでよくすりこんでください。

指先から消毒するのがポイントです。

2. 感染を防ぐために

利用者や同僚の職員への感染を防ぐためにも「拡げない」「持ち出さない」「持ち込まない」を徹底しましょう。感染経路の種類は、接触感染、飛沫感染、空気感染の3つの経路がありますが、新型コロナウイルスは、主に接触、飛沫により感染すると考えられています。

⑤ 感染経路遮断のポイント



⑥ 感染経路の種類

接触感染 (経口感染を含む) 手指、食品などを介して感染する	防ぎ方 手指消毒 手すり、ドアノブなど 共用部の消毒
飛沫感染 咳、くしゃみ、会話などで 出る飛沫から感染する	防ぎ方 マスクの着用 部屋の密閉を避ける 換気
空気感染 ウイルスが空中に浮遊し、 空気の流れにより飛散し感染する	

2. 感染を防ぐために

ドアノブや手すり、ベッドの柵などの共用部分で、人が手で触れる場所は、アルコールクロス等で定期的に消毒しましょう。

⑦ 人が手に触れる共用部分

アルコールクロス等で定期的に消毒



ドアノブ



手すり



ベッドの柵

3. 防護具の扱い方、換気

感染を防ぐために、防護具を着用しましょう。使用時は、正しい扱い方を徹底し、防護具から感染することがないようにしましょう。

① マスクの着脱法

マスクは、鼻と口をしっかりと覆うように着用しましょう。外すときは、マスクの外側及び口にあたる内側にも触れないよう、ひもをもって外します。布マスクが湿ってきた場合は交換し、洗濯しましょう。



鼻と口をしっかりと覆う



外すときは耳のひもをもつ



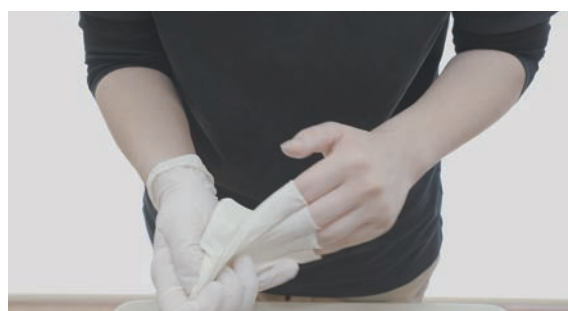
内側を触れないように丸めて捨てる

② 手袋の着脱法

手袋は、作業中に脱げないような大きさのものを選びましょう。外すときは、汚れた外側に触れないように、汚れた側が内側になるよう裏返して外しましょう。



手首の部分をつまむ



汚れた外側に触れないために、汚れた側が内側になるよう裏返して外す



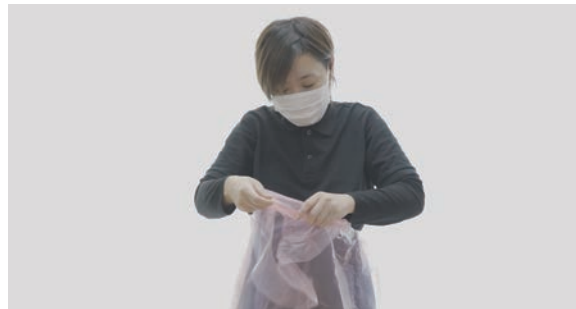
3. 防護具の扱い方、換気

③ ガウン、エプロンの脱ぎ方

ガウン、使い捨てエプロンは、汚れた外側を内側にくるむように丸めて捨てます。



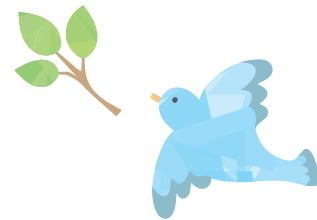
首の後ろをちぎる



上半身を丸める

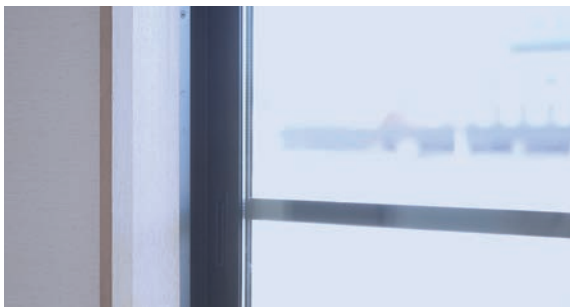


外側が内側に来るように、丸め込んで捨てる



④ 換気

閉鎖した空間では、ウイルスがエアロゾルとして空気中に残るので、定期的に換気します。夏場や冬場の温度変化に気をつけ、2方向の窓を少し開けておく、換気扇で換気するなど、現場に適した方法を選択しましょう。



定期的に換気


換気の方法

- 定期的に窓を開ける
- 2方向の窓を少し開ける
- 換気扇などを使って換気する


4. 利用者と職員の健康管理

重症化リスクが高い利用者は、リスクを把握するために既往歴や現在罹っている病気などを再確認しましょう。あわせて、同居する家族がいれば、家族が罹っている病気なども確認しておきましょう。毎日の体調管理も重要です。利用者の体温や血圧、呼吸の状況など変化がないかを確認し、少しでも異変がある場合は、かかりつけ医か連携する医療機関へ相談しましょう。


① 利用者について事前に確認しておく事項




： ：	： ：
<input type="checkbox"/> 既往歴、現在罹っている病気	<input type="checkbox"/> 同居する家族が罹っている病気



② 利用者のサービス利用時における確認事項



： ：	： ：
<input type="checkbox"/> 体温、血圧 通常時と比べて、異常がないか	<input type="checkbox"/> 嗅覚、味覚障害の有無 臭いがしない、味がしないなどの 異変はないか
<input type="checkbox"/> 呼吸の状況 ゼーゼーしたり、 息苦しそうにしているか	<input type="checkbox"/> その他、体調の変化 吐き気がするなどの 体調の異変はないか
	※少しでも異変がある場合には、かかりつけ医 や連携する医療機関へ相談



4. 利用者と職員の健康管理

③ 職員について事前に確認しておく事項

既往歴、現在罹っている病気

同居する家族の構成

家族の既往歴など

緊急連絡先 (家族)

④ 職員に感染の疑いがある場合

職員自身が、発熱などで感染の疑いがある場合は、まず管理者へ報告し、出勤や外出をしないようにします。医療機関の受診は、事前に医療機関に連絡してからにしましょう。相談する医療機関に迷う場合は、福岡市の受診・相談センターに相談してください。

医療機関を受診する場合

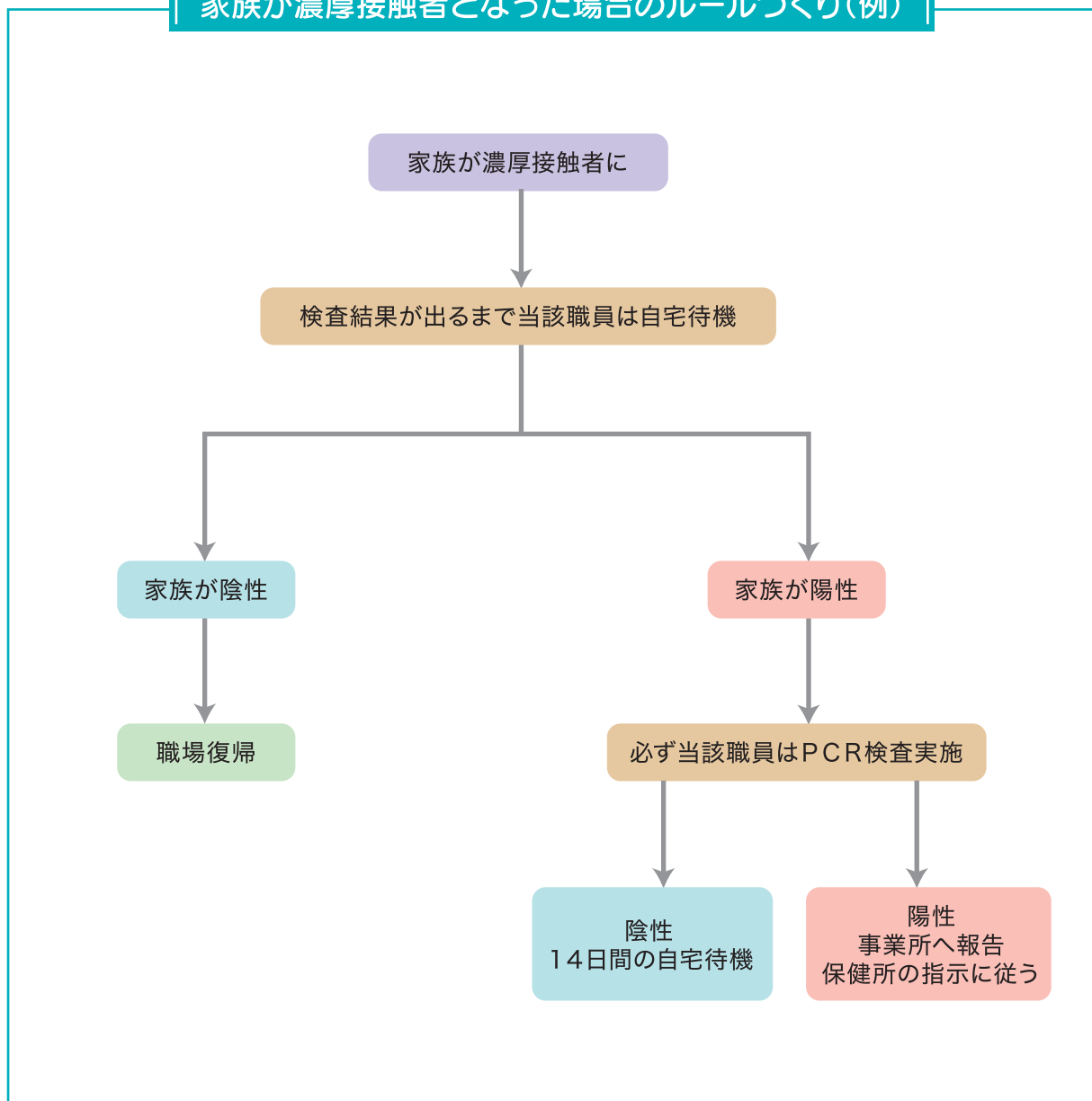


4. 利用者と職員の健康管理

⑤ 家族が濃厚接触者になった場合の対応

職員自身や家族が濃厚接触者となった場合の対応も、事業所内でルール化しておきましょう。家族が濃厚接触者になった場合は、検査結果が出るまで、出勤を控えましょう。

家族が濃厚接触者となった場合のルールづくり(例)



介護従事者における新型コロナウイルス感染対策〈障がい者・基本編〉

【監修】

九州大学病院グローバル感染症センター長 下野 信行
